

第14回自治会館建設委員会議事録

日時 2019年3月8日(金) 場所 つくし野コミュニティーセンター第1会議室
出席者 1・2丁目 渋川、橋本 2丁目 鶴養、加山、木村、友井
3丁目 代谷、中村、原、 4丁目 中川、上野

1 第13回委員会以降の経過について

- 2/10 ふれあい基金運営委員会へ文書で申入れ(鶴養委員長説明)
資料「建設委員会の到達点と今後の取組み」について、来年度最初の会議で説明させてほしい旨と建設委員会への委員の派遣を要請。
- 2/19 成瀬台ゆりの木会館見学の報告(友井書記報告)
- 3/1 つくし野コミュニティーセンターの財政収支等の資料(町田市 HP)入手(委員にメール配信)

2 各チームの検討報告

この間、各チームとも特段の検討はしていない。

3 事業計画(案)の作成について

7月までに事業計画(案)を作成する。

4 4自治会の総会対策について

1,2丁目は4月14日(日)10:00～、2丁目は4月6日(土)10:00～杉山会館、3丁目は4月7日(日)13:30～、4丁目は4月7日(日)10:00～

資料「建設委員会の到達点と今後の取組み」について、鶴養委員長が説明。他の委員も自分の自治会には出席する。

5 自治会の負担について(各委員の発言)

- ・前回委員会で、「自治会に負担はかけないあるいは極力なくす、というだけでなく、最大でこれだけの負担に抑えるというデッドラインを示して議論する必要がある」という発言があったが、そのことについて検討する必要がある。
- ・自治会によっては、負担したくないという意見だけではなく、地域や自治会にとって会館がメリットがあれば協力すべきだという意見もある。
- ・ふれあい基金で運営費を負担すると基金がいづれなくなってしまうという意見もある。
- ・今はふれあい基金に運営費の負担は言える状況にない。自治会の負担を検討してもらうのが限度だ。
- ・会館が地域にとって必要性があれば、自治会でもふれあい基金でも協力するのではないか。要は必要性がどこにあるのかということを議論する必要がある。
- ・どこまで負担してもらおうかというのは難しい。ゆりの木会館は年間自治会員500円の負担をしている。会館負担金として年間112万円を出しているが、建て替えの積み立てもしている。つくし野はこんなに負担してもらう必要はない。
- ・7月までには事業計画案で、損益分岐点の表や支出や利用料収入の見込み、減価償却費を含めて計算し、最大でどのくらいの負担になるのか計算する必要がある。
- ・他の自治会館の収支の最悪のケースなどを参考にする。
- ・需要を調査するためつくし野センター利用団体等への団体アンケートを実施すべきだ。
- ・各委員は各自で収支見通しや損益計算、自治会への負担要請の金額等について、検討すること。

次回日程 : 4月19日(金)19時30分～ 会場:つくし野コミュニティーセンター第1会議室